



国学院大学

令和5年11月20日(月)

定期号(毎月20日発行) 1部20円

【発行】国学院大学 【編集】総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 【電話】03(5466)0130 【FAX】03(5466)0528

祭 儀

■ 月次祭・新嘗祭

12月1日(金) 午前10時 仮殿

渋谷
キャンパス

100周年

渋谷の岡の

足跡をたどる



昭和前期の渋谷校舎

国学院大学が現在の渋谷キャンパスに校地を移してから、今年で100年を迎えた。

本学の母体である皇典講究所は、日本文化の究明と神職養成を行う中央機関として明治15(1882)年に、東京・麹町区飯田町(現・千代田区飯田橋)の地に創立された。

明治維新後、文化や政治体制などが急激に西洋化の流れに向かう中、初代所長で当時の司法大臣でもあった山田顯義伯爵

は、同所の重要性和拡大の必要性を説いた。山田伯爵は、従来の国学の枠を超え、日本の文化や歴史、法律、経済に加え海外百科も学び、総合的な観点で日本を研究する方向性を示し、神職養成に留まらず広く社会に有用な人材を育成することを掲げ、23年に皇典講究所は教育機関である「国学院」を設立。同所と本学は、飯田町で黎明期の歴史を歩んでいった。

その後、学生数の増加や周辺

環境の騒音問題などから研究教育にふさわしい環境を求め、大正12(1923)年に現在の渋谷キャンパスに移転し、関東大震災や第二次世界大戦などの災禍に遭いつつも渋谷の岡で100年の歴史を紡いできた。

今回の特集では、本学の校史研究に携わってきた研究開発推進機構の渡邊卓准教授の協力、監修を受け、渋谷キャンパス移転の背景や100年の歩みを主要な出来事などから紹介する。

6・7面に関連記事

みはるかすもの

クマが日本社会をざわつかせている。東北地方を中心に人がクマに襲われる被害が相次ぎ、今年度被害にあった人数は統計開始以来過去最悪の数字となった。

市街地に出没するクマは「アーバン・ベア」と呼ばれる▼都市部の緑地化や生物の多様性を確保するための環境整備が、クマの生息域拡大に影響したという議論もある。一筋縄ではいかない。多摩地域の山中などに限定されている東京都内のツキノワグマ目撃情報も、いつか住宅街へ拡大するやもと、いやな想像が膨らむ▼OSO18を含むヒグマ被害を追ってきた記事をまとめ、今秋刊行された内山岳志著・北海道新聞社編『ヒグマは見てい

る…道新クマ担記者が追う』は生々しい。『狩獵』と、農地や市街地近辺で行う『駆除』を分けて規制する法改正も不可欠」と警鐘を鳴らす▼カンヌ国際映画祭パルムドール受賞のルーマニアの巨匠、クリスティアン・ムンジウ監督の『ヨーロッパ新世紀』が日本で公開中だ。トランシルヴァニア地方を舞台に、外国人労働者・移民社会といった現代的なテーマで心を深くえぐる▼本作では、クマの生態を調べにきたフランスのNGO職員が現地住民に押搦される。自分たちの生活は苦しいのに、お前はクマを数え上げて金を稼ぐのかと。映画冒頭からほのめかされるのは人か獣かわからない、森に潜む正体不明の存在だ▼クマという存在が問いかけている。異なる者が隣り合う、私たちの日常のありようを。

創立記念祭・関係物故者慰霊祭を執行

学校法人国学院大学は、11月4日に母体である皇典講究所の創立から141年を迎えるにあたり、1日に創立記念祭および関係物故者慰霊祭を渋谷キャンパスで執行した。

創立記念祭(斎主＝大野靖仁法人参事・神殿奉斎員)は仮殿で斎行され、佐柳正三理事長、針本正行学長らが参列した。例年、渋谷キャンパス神殿で斎行されていたが、創立140周年記念事業の一環として行っている神殿の造替および御神域整備のため、仮殿で斎行され、今後の本法人と傘下校の発展を祈念した。

関係物故者慰霊祭(斎主＝北澤薫神道研修事務部長・神殿奉斎員)では、創立以来、物故せられた役教職員や学生・生徒、とりわけこの1年間に亡くなった法人各校の関係者の御霊を迎え斎行された。佐柳理事長、針本学長はじめ、法人、大学の役教職員、遺族、学生らが参列。斎主による祭詞奏上の後、学生による「慰霊の舞」やフォイエール・コール



学生による「慰霊の舞」の奉納[関係物故者慰霊祭]

混声合唱団による追悼歌などが奉仕された。佐柳理事長、針本学長に続き、遺族や学生代表らが祭壇に玉串を捧げ拝礼し、物故者をしのんだ。

第10回渋谷区民大学講座 第一線の研究者が 東京の未来を展望

「21世紀の東京論」と題した第10回渋谷区民大学講座が10月28日、渋谷キャンパスで開催された。講師とテーマは、第1部が吉見俊哉・観光まちづくり学部教授Ⅱ写真Ⅱによる「東京裏返し―尾根を上る渋谷から川筋を這う渋谷へ―」、第2部がジョルダン・サンド・研究開発推進機構特別招聘教授、米ジョージタウン大教授Ⅱ同下Ⅱによる「東京ヴァナキュラー」。学生を含む多くの一般参加者は講師の独自の東京論に熱心に耳を傾けた。

第1部で吉見教授はまず、現在の渋谷を駅前に高層ビルが建設されるなど「巨大再開



発が止まらない状況」と位置付けた。1970年代に「渋谷パルコ」が開業し、公園通りに若者が集まり、華やいだ文化を創出した時代からは様変わりした形だ。

そうした中でも若者が一様に高層ビルの上へ上へと駆け上がっているわけではないと分析した。近年、若者らは渋谷を再発見するかのよう



併せて都市の在り方を根本的に見直す必要性も指摘した。渋谷は車道が多く混雑して騒がしいのは否めない。車道を減らし、欧州のように歩道・自転車道を充実させ、脱自動車都市を目指すべきだと提唱。最後に「過去とのつながりを重視し、古いからこそ新しいという発想が大事だ」と訴えた。

第2部では日本に留学し、東京大学大学院で建築史を研究したサンド教授が、その経験と実績を生かし、庶民の日常生活からヴァナキュラー建

理事長・学長らが展墓



学校法人国学院大学では、創立記念日を迎えるにあたり、佐柳正三理事長、針本正行学長はじめ役員らが10月23日、豊島岡御墓所に皇典講究所初代総裁・有栖川宮幟仁親王と高松宮宣仁親王・同喜久子妃の墓を参拝した。続いて護国寺檀徒墓地において、皇典講究所初代所長・山田顯義伯爵と戦後の混乱期に本学を牽引した石川岩吉・元理事長兼学長の展墓を行った。

戦没先輩学徒慰霊祭を斎行



戦没先輩学徒慰霊祭が10月14日、渋谷キャンパス正門横の「学徒慰霊之碑」「建碑来歴碑」前で斎行された。

これらの碑は、日中戦争から太平洋戦争において、学業半ばで戦没した本学学生や教職員、院友らを慰霊するために昭和43(1968)年に建立された。

この慰霊祭は、46年に学生有志により始められ、今回が53回目となる。本学での出陣学徒壮行会が18年10月14日に行われたため、毎年同日に斎行している。

当日は、戦没先輩学徒慰霊祭実行委員会の学生をはじめ、教員らが参列。学生による「浦安の舞」の奉奏などが行われ、慰霊碑に祀られている御霊を慰霊した。

永年勤続者表彰に31人



学校法人国学院大学では、創立記念日を迎えるにあたり、11月1日に渋谷キャンパスで勤続40・30・20年の節目を迎えた法人傘下各校の教職員を表彰した。当日は佐柳正三理事長から一人一人に表彰状が手渡された。対象者は31人。

【勤続40年】樋口晃、榮隆生、山路伸一（以上国学院大学久我山高校）、佐藤勝、宮村千春（以上国学院大学久我山中学校）
【勤続30年】宮内靖彦、坂本一登、小原薫、堀江紀子、堀内弘行、細島洋紀、飯塚陽子、坂入裕一、古澤繁、石渡美帆（以上大学）、平田久仁子、小形尚美（以上国学院高校）、山本則之（国学院大学久我山高校）、高橋知尚（国学院大学久我山中学校）
【勤続20年】白井重範、根岸毅宏、遠藤潤、結城孝治、原田佳昌、市原基樹、朝比奈友（以上大学）、倉敷栄治、谷崎美穂、田口敦士、柳町和洋（以上国学院高校）、中村友子（国学院大学久我山中学校）

未大成の検非違使研究

小川清太郎の自筆原稿群

学問ノ道

第55回



小川清太郎の自筆原稿

国学院大学法学部教授であった小川清太郎（1909―73年）は、昭和18（1943）年に本学の講師となり、アジア・太平洋戦争終結後に政経学部が創設された際、法学と経済学の銚々たる教員陣容のうちの一人として着任した。在職中は法学や民法を担当し、学務の要職も歴任したほか、律令・式内社研究の権威であった瀧川政次郎が退職すると日本法制史を大学院で担当した。他方、長年にわたり家庭裁判所の調停委員としても尽力し、のち藍綬褒章を受章した。このような経歴から、本学で小川というと、民法の先生という印象が先立つことだろう。

ところが、彼の処女論文かつ出世作は、小川がまだ早稲田大学大学院の院生だった頃に発表した「庁例の研究」（昭和12年）と「検非違使の研究」（昭和13年。ともに『早稲田法学』掲載）であり、もともとは日本法制史の研究を本領としていたのである。加えてこの二つの論文は、当時早稲田

大学大学院に出講していた瀧川の指導のもと執筆したもので、その史料収集の網羅性と叙述の体系性と論理性は、とても一院生のそれとは思えない高水準を誇り、今日に至るまで、この方面に関する基礎的文献としての耀きを失っていない（昭和63年に名著普及会から『検非違使の研究・庁例の研究』として復刻刊行）。

しかしながら、在職中の小川はすでに法制史への関心を失っていたとされ、その後、ついに彼の検非違使および庁例に関する研究が総括されることはなかった。後年、瀧川は「あれ（小川*論者注）早稲田の大学院でわたしが教えたとき、それで検非違使の論文を書かせたんです。検非違使の考え方をあれにやりました。それはもう非常に優れた論文でしてね。その後殆んど論文書かないんだよ彼はね。」と述懐している。

こうしたなかで先年、幸運にも小川の自筆原稿群の寄贈を得た。200字詰め原稿用紙で381枚

におよぶ原稿の束が主で、書名は不明ながら目次には「第一部 検非違使」「第二部 検非違使庁」「第三部 庁例」とあり、筆意も考慮するに検非違使・庁例に関する知見を一般書としてまとめ直そうとした、その草稿らしい。現在残る381枚は第一部第一章相当分のようなだが、驚嘆すべき大分な構想といえよう。使用された原稿用紙・用箋は早稲田大学・日本大学・東京帝国大学・国民精神文化研究所のものなので、大学院修了後、職を経るなかでまとめたといったものようだ。他に大量のメモ・草稿案も残るが、再三再四におよぶライトの痕跡があり、産みの苦悩が滲み出るようである。本学における国法の学という、黎明期に植木直一郎を見、近くは瀧川の存在が際立って偉大であるが、小川の自筆原稿群は、その系譜が脈々とそして着実に継承されてきたことを物語っている。

研究開発推進機構助教(特別専任) 比企貴之

観光まちづくりカフェ 学生らが沿線開発のプロから学ぶ



第8回観光まちづくりカフェが10月11日、たまプラーザキャンパスで開催され、約60人が参加した。

今回は「TOD（公共交通主導型開発）」によるサステナブルな田園都市」をテーマに（株）東急総合研究所の太田雅文氏を招き開催。太田氏は、鉄道会社による沿線開発の歴史や、SDGs、脱炭素などの観点も交えて持続可能な地域社会の在り方について語った＝写真。質疑応答では、具体的な駅、地名などの実例を題材に、沿線の歴史や都市開発の未来について活発な意見交換が行われた。

留学へ向け Go Global Weekを開催



海外留学を希望する在学生へ向けた説明会や個別相談を行うGo Global Weekが10月23日から27日にかけて渋谷キャンパスで開催された＝写真。

25、26日には、春期短期留学説明会や認定留学説明会など複数の説明会を実施し、延べ約40人の学生が参加した。説明会では、国際交流課や留学支援団体の担当者が各留学プログラムの概要説明や留学先の探し方、本学の留学支援奨学金制度などを説明。学生は熱心にメモを取りながら耳を傾けていた。

国際交流課は「少しでも留学に興味を持つ学生たちに、たくさんの可能性と選択肢を見つけてほしい」としている。

フレンドシップファミリー 交流会が開催



国学院大学で交換留学生として学ぶK-STEP交換留学生とフレンドシップファミリーらの交流会が11月11日、たまプラーザキャンパスで開催され約30人が参加した。

今回は、同キャンパスで養蜂活動に取り組む本学サークル「万葉エコBeeプロジェクト」の学生らが協力。参加者は今年採取されたハチミツの瓶詰め体験や特製のハチミツを使ったパンケーキ作りを通して異文化交流を図った。参加した交換留学生は「自分の知っている調理方法ではなかったので難しかったが、みんなと協力してうまく作ることができた」と笑顔で語った。



一糸乱れぬ動きで舞う学生たち

神道文化学部が主催する第13回観月祭が10月28日、渋谷キャンパスで開催された。観月祭は、平安時代から続く十五夜に満月を観賞する「中秋観月」の伝統に由来する行事。同学部の学生らが5号館ピロティの特設舞台で、日本伝統の管絃、祭祀舞、御神楽を古式ゆかしく披露し、教職員や学生の家族、一般の観客らは学生たちの演奏と舞に大きな拍手を送った。

はじめに学生が舞台前に神饌を捧げ祭祀を行った。続く管絃では合奏の前に楽器の音律を



息の合った演奏で、厳かな旋律を披露

調えるために奏する「双調音取」や唐楽の「武徳楽」「酒胡子」「胡飲酒破」が披露され、竜笛や笙などの音色による息の合った演奏で、会場が荘厳な雰囲気包まれた。

祭祀舞では、太陽や自然の恵み、神そのものに感謝する「豊栄舞」と、世の中の平和と平穏を願う「浦安の舞」が披露され、色鮮やかな装束に身を包んだ学生たちが一糸乱れぬ舞を奉じた。



「Music Caravan 秋のコンサート」の一幕

「Music Caravan 秋のコンサート」では、秋にちなんだ楽曲などを中心に演奏された。子どもたちは、学生と一緒に歌うなど一体となって楽しんでいた。

他の企画も一日を通してにぎわいをみせ、キャンパスは子どもたちの歓声に包まれた。

その他の企画でも、学生が日々の学びを生かし運動や健康へのアドバイスを送り、参加者と交流を深めていた。

第13回観月祭

月空の下で学生が舞と演奏を披露

人間開発学部が地域交流2イベント

秋空の下、学生が親子らと交流

たまプラーザキャンパスに拠点を置く人間開発学部が、日ごろの教育成果をもとに地域住民へ向けたイベントを開催し、交流を深めた。

■ 共育フェスティバル

10月29日には、第14回共育フェスティバルが開催され、地域の親子連れを中心に約800人が来場した。このイベントは、地域の子どもたちへ体験や学び、遊びの機会を提供し、学生も学部での学びを実践するもの。今回は、工作体験や理科実験、コンサート鑑賞など16企画が用意された。

「作ってあそぼう！身近な素材が大変身☆」では、紙コップなど身近な材料を使い、子どもたちが、けん玉などのおもちゃ作りを体験。完成後、子どもたちが遊ぶ様子に、学生たちは笑顔を見せた。



さまざまな企画が行われていたアリーナ

■ スポーツフェスティバル

10月15日には、第8回地域交流スポーツフェスティバルが開催され、子どもからシニア層まで約300人が参加した。このイベントは、同学部地域ヘルスプロモーションセンターが主催。運動施設や測定器具を生かし、体力測定や運動体験、救急救命体験など9企画が用意された。「いろんな動きを試してみよう」では、特設のアスレチックコーナーが用意され、子どもたちが学生にコツを教わりながらミニ鉄棒などに挑戦。小学1年生の男児は「お兄さんたちと一緒にジャンプしたりして楽しかった」、30代の母親は「いろんな企画があって、一日楽しめました」と感想を語った。

法学部60周年 荻田真司学部長に聞く 主体性を喚起する教育を



国学院大学法学部は、令和5（2023）年に学部開設60周年の節目を迎えた。経済の飛躍的発展やグローバル化の進展など、この60年間に日本社会は大きく変貌した。そうした中、組織や社会活性化のカギを握るのは人材だと指摘する。法学部は今、いかにして時代の要請に応えようとしているのか、荻田真司法学部長（教授）に聞いた。

法学部は昭和38（1963）年に開設されて以降、学生に法律や政治の専門的知識を教授し、社会の構成員として主体的に活動できる人材の育成を目指して取り組んできました。その60年に及ぶ努力

の成果は、本学部卒業生の各界での大いなる活躍に端的に表れています。これらの成果を引き出した諸先輩の教育・研究での努力に大きな敬意を表するとともに、社会で活躍する卒業生・院友の皆さまを

大変誇りに思っています。60周年を迎え、その伝統を引き継ぐということで、改めて身の引き締まる思いです。さて、本学部は今後も単に法律や政治の知識を習得するだけの教育をしようとは考えておりません。本学部には法律や政治など多くの科目の講義が用意され、法律の条文をはじめ判例の解釈、内外の政治や政策、それに関する歴史などと、法学・政治学の知識を存分に学べるようになって

います。しかし、大事なのは個々の科目の中身を習得するだけでなくとどまらず、例えば法律ならその条文の背景にある考え方や成り立ちの経緯などにも踏み込んで、とこと本質に迫ることです。その思考の修練を繰り返すことで、直面する問題を適切な解決へと導くことが可能となる判断力を養うことができると思っています。グローバル化が進み、外か

法学部の取り組み

少人数教育、フェロー、政治体験… 充実した多様な教育体系

本学部の第一の特徴は、特色ある教育手法、カリキュラムを数多く採用していることです。その一つが少人数教育への取り組みです。法律専攻、法律専門職専攻、政治専攻の3つの専攻のうち法律専門職専攻と政治専攻は入学定員を約50人にし、教員と学生との対話を重視した濃密な教育をしています。目標に向けて学生同士が励まし合うという効果もあって、成果は着実に上がっています。入学定員約400人の法律専攻も1年次に「公法入門」「刑事法入門」「民事法入門」の科目を用意し、グループディスカッションを中心としたアクティブ・ラーニングにより、新入生の法学部生が大学の授業により興味が持てるように工夫し、スモール・ステップ方式により着実に法律の知識が身に付くようなカリキュラムを設定しています。フェローによる学びのサポートの仕組みもあります。大学院生または大学院を修了したフェローが、講義で理解が追いつかない点があったり、逆に学びをもっと先に進めたかったりする学部生に対して指導する制度です。授業での行き詰まりを解消し、意欲の高い学生をさらに前へ



と後押しする効果を発揮しています。

また、政治専攻では議員事務所などで政治活動を実体験できる政治インターンシップも設けています。主体性を高め、行動力を育むという点でもユニークで有益なプログラムです。

このほか外部の講師を招いて法律・政治に関係する社会問題などを論じていただく法学会講演会を開催しています。写真。また法学、政治学をテーマに懸賞論文を年1回募集し、優秀論文を表彰する制度や、フィールドワークを通じ地方自治体への政策提言を体験できるプログラムもあります。効果的で多様な学修機会の提供には今後も注力していきます。

ら多様な価値観が流入する中、価値観の違いが引き起こす対立を、卓越した判断力でまとめ上げる能力は今後ますます重要になります。法学部生に身に付けてほしいのは、まさにこの能力なのだと言いたい。

行動にも主体性を根付かせよう。とさまざまな教育手法の導入に積極的に取り組んできました。これはいかにきめ細かな教育を展開できるかへの挑戦でもありました。基軸に据えたのはディスカッションを中心にして、学生の授業への主体的な参加を促すアクティブ・ラーニングです。各大学が最近、この形態の講義を取り入れる傾向を強めています。法学部は早くからこの方針を明確に打ち出し、学部

に定着させることができたという自負があります。また、本学部は法律専攻、法律専門職専攻、政治専攻と専攻が3つに分かれています。それぞれの特質を踏まえて、時代に引き続く教育の改善に力注いでいくつもりです。（談）

子ども支援学科10周年 学科代表・吉永安里准教授に聞く 学びに向かい常に成長を



「人づくりのプロ」育成を目指す国学院大学人間開発学部にある、人の資質が形成される乳幼児期の保育・教育を担う人材を世に送り出し続けている子ども支援学科が設立10周年を迎えた。学科代表の吉永安里准教授に学科が目指してきたものと志向する未来について聞いた。

本学科は、保育・幼児教育の担い手育成のために設立された国学院大学幼児教育専門学校（幼専）を発展的に解消させる形で平成25（2013）年に設立されました。背景には、少子化や社会の多様化などによって保育者に求められるものが多岐にわたって

「子ども支援」とは乳幼児期の子どものための保育・教育に携わるだけではなく、子どもを取り巻く環境をより良いものとする、例えば子育てに悩む保護者を支えたり、子どもを守るために関係各所と密接な関係を構築したりすることを含みます。ですから、保育者は就学前の数人

に保つことも欠かせません。近年、子どもたちは「空間」「時間」「仲間」の「3間」を失ったことで育ちが未熟になりがちだと指摘されています。また家庭の子育て機能の低下も顕著となり、「児童虐待」という、あつてはならない事態に陥ることも大きな社会問題となっていますが、その

学科では保育者としての高度な専門性を学んでもらうのと同時に、子どもであろうと大人であろうと誰とでも適切に関わることでできる人材育成を目指しています。

令和5年3月の卒業生実績では、難しいとされる公立幼稚園・保育所への現役合格率が志願者の9割に届く勢いでした。また、児童福祉施設や保育・幼児教育施設への就職は6割を超えています。玩具メーカーや出版社、金融機関、中には年金機構といった就職先を選んだ学生も

に現状打破に取り組むことになりました。現場に立つ院友には保育者の魅力を再認識してもらい、在学生には先輩方が働く姿を見ることで保育職の魅力を感じ取ってもらえる場を設けました。また、将来の保育者となる可能性のある高校生が進路について前向きに考えられるように学科教員が高校へ出前授業をしています。

このような事態を受け、本学科は文部科学省の「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の『職』の魅力向上・発信事業」に選定されたことを機

と考えています。（談）

子ども支援学科の取り組み

絵本と遊びを通じて 学びをコーディネート



子ども支援学科では、入学直後の1年次から幼稚園、保育園、施設などでのボランティアや実習といった現場での実践を交えながら保育・幼児教育の基礎を学びます。中でも学科代表の吉永安里教授が特筆するのは自身の専門分野でもある「絵本」を活用した指導です。

1年前期の「導入基礎演習」では、学科全体で取り組んでいる「絵本カード」を生かして「絵本ビブリオバトル」を行っています。前者は、100冊の絵本を読んで書誌情

報、あらずじ、感想などをイラスト交じりでカードに記載するというもの。学生にとっては「苦行」かもしれませんが、幼児教育の強力なツールとなる絵本に関わる最新情報をアップデートできます。

後者は、互いが推す本を紹介しあうコミュニケーションゲームの絵本版。ビブリオバトルで勝利を収めると、図書館に蔵書されるとともに手製のPOP写真が館内に飾られるという荣誉が与えられます。手作りPOPには図書館職員から手書きのメッセージも添えられ、学生のモチベーションはいやが上にも高まります。中には立体的な造形でPOPを作る学生もいて、発想に驚かされます。

一見、「遊び」のようですが、その絵本の魅力を人に伝えるために自分を見つめ直したり、絵本を分析する学びにつながり、相互にプレゼンすることによって人間関係も深化させることができます。遊びとは楽しくて没頭できるもの。子どもは遊ぶことで気付かぬうちに資質を伸ばします。遊びこそ学びといえます。保育者は遊びのコーディネーターであり、遊びを通じて学びを支援することが求められるのです。

創立の地・飯田町から渋谷へ

国学院大学の母体・皇典講究所は、明治15（1882）年に、飯田町（現・千代田区飯田橋）で創立された。23年に同所内に教育機関「国学院」が誕生し、37年に「私立国学院」39年に「私立国学院大学」と改称し、歩みを進めてきた。

大正9（1920）年には、大学令により認可を受

け、本学は、慶応義塾、早稲田、中央、日本、明治、法政、同志社とともに、日本最初の私立大学となった。大学昇格による学生数の増加と図書館建設の必要性から飯田町校舎では手狭となり、周辺鉄道の発達で講義の音が聞き消されるほどの騒音となるなど、研究教育に適した環境が求められた。

震災と戦災 2度の災禍

渋谷校地での授業は、6月1日から開始されたが、9月1日に関東大震災が発生する。火災は免れるも、校舎西側の2、3階が破壊され、天井や床、支柱には亀裂が生じるなど大きな被害を受けた。

復旧工事は13年に完了し、11月25日には、皇典講究所の第4代総裁・久邇宮邦彦王の総裁奉戴式と新校舎復旧竣工式が挙行された。

両式典に臨み、校歌と校旗が制定された。これは、「渋谷移転の記念となるものを」という学生たちの熱意によって実現した。校歌の作詞は、学生たちから懇願を受けた当時の芳賀矢一学長、作曲は、本居宣長の子孫で童謡「赤い

靴」などで知られる本居長世が行った。校旗は、学生有志たちの拠金によってつらえられ、赤紫に染めた生地の中に金糸で「國學」の2文字を刺繍し、四圍に金のモールが施された。

震災以降、昭和初期にかけ学生数は増加し、昭和2（1927）年には図書館の新築、3年には校舎の増築、5年には神殿鎮座など皇典講究所と本学は順調に発展していった。

しかし、時代は日中戦争、太平洋戦争へと突入する。戦局の悪化に伴い、学生は軍需工場などでの勤労奉仕、教職員は徴兵と、講義は満足に行えない状況となった。だが、

「渋谷の岡」の再興

戦後、10月から授業が再開され、学生は再び渋谷の岡に集う。21年4月には、諸大学に先んじて女子へ学部門戸を開放し、男女共学制を採る。女子教養科も新たに設け、復員した軍服姿の男子の中に、女子学生の姿が見られるようになった。

また、日々の糧のため労働せざるを得ない若者のため、学部第二部（夜間部）を開設したほか、戦災で下宿先の確保が困難となった地方出身学生に向け、振武館（剣道場・柔道場）を学生寮として開放した。敗戦の混乱期にあっても向学心を持つ若者たちへ進学の道を拓くことに当時の経

営陣、教職員は心を砕いた。教育組織は、戦後から現在まで拡充を続けている。昭和23年に新制大学に対応した文学部第一部、24年に政治学部（25年政経学部）に改組、現・経済学部、法学部、28年に大学院、38年には法学部第一部を開設。さらに、平成14年には神道文化学部が開設された。現在では4学部9学科・大学院・専攻科・別科の約8700人が渋谷の岡で学んでいる。研究組織では、昭和30年に日本文化に関する研究を深め、諸外国と比較してその本質を明らかにすることを目的に日本文化研究所を設立。平成19年には研究開発推

進機構が発足し、現在では日本文化研究所を含む5機関が「国学」による共同研究活動に取り組んでいる。

施設面では、創立80、90周年事業として、移転以来の校舎を、新し、2代目校舎となった。現在の校舎は3代目で、創立120周年を契機に14年から再開発に着手し、25年からは第2次再開発が行われた。3代目校舎では、昭和3年に開設された考古学陳列室と38年に開設された神道学資料室に淵源を持つ博物館が開館するなど、広く社会に研究成果を発信する施設も充実し、多くの人が訪れている。

「本の無い大学」から「本でできた大学」へ

諸施設の中でも、とりわけ図書館は研究、学修を支える重要な存在だ。皇典講究所の創設時には、神道事務局から蔵書を譲り受け図書室が設けられたが、明治35年の校舎火災で多くの蔵書を失う被害を生じ、渋谷移転後は関東大震災によって図書館の建築が遅れるなど、飯田町時代から蔵書の拡充は苦勞の連続だった。

念願だった図書館は昭和2年5月に完成、開館を迎える。実現には、本学の建学の精神に賛同した当時の東武鉄

道社長の根津嘉一郎氏が申し出た図書館建築のための寄付によるところが大きく、本学は完成した図書館棟の名称を「根津記念館」と定め、氏の篤志をたたえた。

35年11月には、学生数の増加を受け、新図書館を建設。近代化され、当時東洋一の規模と謳われた新図書館の誕生は、ロックフェラー財団（米国）による援助が大きかった。日本の将来における本学の使命を感じた、同財団の人文科学部長チャールズ・バートン・ファーズ博士による幹

旋とのことで、博士は日本文化研究所の設置にあたっても援助を図るなど、本学の発展に大きく寄与した。

現在の図書館は3代目で、令和4年度末での蔵書数は160万冊を超え、特に古典籍では世界的に見てもトップクラスを誇り、「本でできた大学」といわれるに至っている。その背景には、その時代の教授陣や院友、篤志家、神社界に加えて海外からの寄贈や援助の善意があったことを忘れてはならない。



2代目渋谷校舎正門。左右にヒマヤスギが見える



現在の3代目渋谷校舎正門

キャンパストリア

渋谷校地初期から残るもの

渋谷キャンパス100年の歴史のなかで、その初期から残り続けているものがある。1つは、正門脇の一角にある雪見灯籠。これは創立当初から残る唯一のもので、飯田町校地にあった旧旗本の秋元隼人邸の庭に置かれていた。2つ目は、移転7年後の昭和5年に建立された神殿。渋谷校地移転に尽力した和田豊治理事の篤志により実現した。今後、創立140周年記念事業の一環でたまプラーザキャンパスに移設される。3つ目が、正門付近の巨木、ヒマヤスギ。こちらは正確な記録が残っていないものの、国学院の第1期卒業生が記念に5本寄贈したと伝わり、2本が現存している。

若木と常磐松の由来

本学の施設には「若木」の字がよく使われている。これは昭和3年から41年まで、校地周辺の地名として「若木町」があったことにちなむ。若木町は、現在の広尾高校・広尾中学校の場所に、街路樹の苗木を育成する「東京市種苗園」があったことに由来している。

同じく「常磐松」も用いられている。現在の学術メディアセンター棟周辺には、幕末まで薩摩藩島津家の江戸下屋敷があり、「常磐松」と呼称される樹齢400年を誇った松の巨木があったことに由来している。その樹名は、源義経の母である常盤御前が同地に住んだ際に植樹したからともいわれている。この松は、空襲で焼失したが、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館の向かいに、薩摩藩士が建てた「常盤松の碑」が現存している。



大正期の初代渋谷校舎



渋谷
キャンパス 100周年

渋谷の岡に大学立てり

（監修・協力：研究開発推進機構 准教授 渡邊卓）

令和6年度 学費一覽

令和6年度学費は次の通りです。

学部

(単位：円)

区 分	入学年度	入学金	授業料	施設設備費	維持運営費	合 計
文 学 部	令和6年度	240,000	760,000	210,000	10,000	1,220,000
経 済 学 部						
法 学 部						
神 道 文 化 学 部						
人 間 開 発 学 部	令和2～5年度	—	760,000	210,000	10,000	980,000
観 光 ま ち づ くり 学 部						
文 学 部						
経 済 学 部						
法 学 部	令和2～5年度	—	800,000	250,000	10,000	1,060,000
神 道 文 化 学 部						
人 間 開 発 学 部	令和4～5年度	—	800,000	250,000	10,000	1,060,000
観 光 ま ち づ くり 学 部						
文 学 部	令和元年度以前	—	700,000	201,000	10,000	911,000
経 済 学 部						
法 学 部						
神 道 文 化 学 部						
人 間 開 発 学 部						

備考 再入学者の入学金については半額とする

別科

(単位：円)

入学年度	入学金	授業料	施設設備費	維持運営費	実習料 (入学年度のみ)	合 計
令 和 6 年 度	145,000	420,000	81,000	10,000	6,000	662,000
令和5年度以前	—	420,000	81,000	10,000	—	511,000

専攻科

(単位：円)

出 身 別	入学年度	入学金	授業料	施設設備費	維持運営費	合 計
本 学 卒	令和6年度	120,000	760,000	105,000	10,000	995,000
他 大 学 卒		240,000	760,000	210,000	10,000	1,220,000
本 学 卒	令和5年度以前	—	760,000	105,000	10,000	875,000
他 大 学 卒		—	760,000	210,000	10,000	980,000

備考 本学出身者の入学金および施設設備費は半額とする

大学院

(単位：円)

区分	出身別	入学年度	入学金	授業料	施設設備費	維持運営費	合 計
前期課程	本 学 卒	令 和 6 年 度	100,000	505,000	100,000	10,000	715,000
		令和5年度以前	—	505,000	100,000	10,000	615,000
	他 大 学 卒	令 和 6 年 度	200,000	505,000	200,000	10,000	915,000
		令和5年度以前	—	505,000	200,000	10,000	715,000
後期課程	本 学 卒	全 入 学 年 度	—	505,000	—	10,000	515,000
	学部本卒前期他卒	令 和 6 年 度	100,000	505,000	100,000	10,000	715,000
		令和5年度以前	—	505,000	100,000	10,000	615,000
	他 大 学 卒	令 和 6 年 度	200,000	505,000	200,000	10,000	915,000
		令和5年度以前	—	505,000	200,000	10,000	715,000

- 備考**
- 授業料、施設設備費、維持運営費は在学中毎年度納入するものとする
 - 本学出身者の入学金および施設設備費については次の通りとする
イ. 前期課程＝半額
ロ. 後期課程＝本学前期課程修了者は徴収しない。本学学部出身者で、他大学前期課程修了者は半額



学生スタッフによるキャンパスツアー「渋谷キャンパス」



夏秋英房・人間開発学部教授による模擬授業「たまプラーザキャンパス」

両キャンパスとも昼食時には学食も大にぎわいとなったほか、在学生と合流して親子で過ごす父母らもおり、参加者はキャンパスでの時間を楽しんでいた。

たまプラーザキャンパスでは約360人が参加。有賀洋・同会副会長が「学生が学ぶ環境を体感してほしい」、太田直之キャンパス長（人間開発学部長、教授）が「学部の特性に応じた施設などの取り組みを感じてほしい」とあいさつ。渋谷同様、模擬授業や学部ガイダンスには多くの父母らが参加し熱心に聴講したほか、各学部の特徴的な教室などの見学が行われた。

熱心に耳を傾けていた。在学生によるキャンパスツアーも行われ、「学食はどこがおすすめ？」などと在学生と参加者が会話を交えながら主要な施設を巡ったほか、図書館、博物館にも多くの父母らが見学に訪れていた。

在学保証人（父母ら）の森伸一会長が「大学での一日を楽しんでほしい」、針本正行学長が「模擬授業などで学びの一端に触れてほしい」とあいさつ。文・経済・法・神道文化学部の模擬授業は、約1700人が参加した。渋谷キャンパスでは、同会

父母らが学修環境に触れる

キャンパス見学会

インフォダイジェスト

… 在学生 … 保証人 … 卒業生 … 一般 … 受験生
内容 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

大学からのお知らせ

令和6年度 一般選抜入学試験のご案内

来年度の一般入試を下表の日程で実施します。入学制度のV方式とA日程同時出願や、学部内併願をした場合、2回目以降の受験料を割引する応援割も用意。詳細は本学HP（二次元コード）で確認してください。

※本学の一般入試は受験ポータルサイト「UCARO」上でのインターネット出願となります

問入学課（☎03・5466・0141）



卒業式、卒業証書・学位記並びに
修了証書授与式について



回令和6年3月20日(水・祝)
【卒業式】
場グランドプリンスホテル新高輪 宴会場「飛天」
対・時
▶経済学部・法学部・人間開発学部＝10時～
▶文学部・神道文化学部・専攻科・別科＝14時～
【卒業証書・学位記、修了証書などの授与】
対・時・場
▶経済学部・法学部＝13時30分～、渋谷キャンパス
▶人間開発学部＝14時～、たまプラーザキャンパス

令和6年度 一般選抜入学試験日程

入試制度		試験日	出願期間（消印有効）	合格発表
V方式（大学入学共通テスト利用入試）		1月13日(土)～14日(日) 本学個別試験なし	1月4日(木)～12日(金)	2月13日(火)
A日程（全学部統一）	3教科型	2月2日(金)	1月4日(木)～22日(月)	
	得意科目重視型	2月3日(土)		
	学部学科特色型	2月4日(日)		
B日程（後期）		3月2日(土)	1月4日(木)～2月22日(木)	3月11日(月)

※試験科目などの詳細については本学HPで確認してください

イベント



令和5年度国際研究フォーラム
「見られることで何が変わるのか
—ツーリズムと宗教文化—」



宗教とツーリズムは、グローバル化とあいまって、より一層相互に密接に関わるようになり、宗教文化を資源としてツーリズムを振興しようとする試みは、もはや珍しいものではなくなりました。このフォーラムでは、さまざまな現場で調査・研究を行っている研究者と、宗教とツーリズムの多様な交錯のあり方について考えていきます。申し込みは本学HP（二次元コード）から。

日・時12月17日(日)13時30分～17時30分
料無料
申12月10日まで
問研究開発推進機構事務課
（☎03・5466・0104）



博物館



料無料
時10時～18時(最終入館17時30分)。休館日はHP（二次元コード）でご確認ください
問☎03・5466・0359



企画展「マラッカを越えて極東アジアへ
—ポルトガル地図学の16世紀—」

16世紀、マラッカ王国を支配したポルトガルはこの地を拠点として、未知の極東の海への航海を行いました。本展では、本学図書館が所蔵する当時のポルトガル人とレキオス—琉球人—との貿易の影響で、順次改定されていったポルトガル製地図をはじめとする欧州製地図レプリカの展示を通じて、描かれた極東像と琉球・日本認識の変遷をたどります。

日11月25日(土)～令和6年2月12日(月・休)
場博物館企画展示室

▶文・神道文化学部・専攻科・別科＝17時～、渋谷キャンパス
※参列は学生・家族等（2人まで）となります。
問総務課（☎03・5466・0111）

法学会懸賞論文募集



国学院法学会では学生懸賞論文を募集します。論文テーマは法律学、政治学に関するもので、応募条件は、①「日本語」で書かれたもの②応募は1人1編（共同執筆も可）③未発表のもの（ゼミ論で作成した論文も応募可※政治専攻のスタディ・ペーパーを除く）などです。応募期限は令和6年1月22日(月)午後3時までです。詳細は大学HP（二次元コード）や募集要項で確認を。

問本学法学部生
問法学会懸賞論文窓口
（☎law-kensyo@kokugakuin.ac.jp）



キャリアサポート



※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行ってください

「就活体験記」「ES」の提出に協力を

4年生を対象に就職活動で内定・合格もしくは、最終選考まで進んだ企業（団体）の「就活体験記」、書類選考を通過した企業（団体）へ実際に提出した「エントリーシート（ES）・履歴書」の提供をお願いします。提出いただいた「就活体験記」「ES・履歴書」は個人情報情報を削除し窓口で公開（「就活体験記」は本学学生のみが閲覧可能なキャリアサポートサイトでも公開）。4年生の皆さんの経験は、後輩にとって大変貴重な資料ですので、ぜひご協力をお願いいたします。提出手順は大学HP（二次元コード）でご確認ください。

ご提出いただいた方には、累計提出件数に応じ非売品の「大学オリジナルフリクションペンもしくは多色ペン」を差し上げます。下級生の皆さんは、先輩たちの体験談を参考にしてみてはいかがでしょうか。

問キャリアサポート課
（☎03・5466・0151）



人育ての国学院「修理固成」の誇りを



名誉教授 新富 康央

しんとみやすひさ
学校法人国学院大学特別参事。
人間開発学部初代学部長、専門
は教育社会学、人間発達学。新しい
時代の子育て論には定評。

今年1日、第141回創立記念祭が執り行われました。「大学で、とりわけ国学院大学で学ぶとは、どういうことか」。今回も、本学関係者にとって基本である、このテーマについて掘り下げていきたいと思っています。

大学史で言えば、国学院大学は戦前、早稲田大学、慶応義塾大学と並んで、「私立文系3大学」の一つでした。

大学は、そもそも現代のように受験競争で選抜される機関ではなく、社会教育機関でした。つまり、学びたい者が居て、学校教育のような公的教員資格は無いが学び取らせたい研究内容を保持する教員が居れば成立する、教育機関でした。

すなわち「学歴」は本来通り、学校歴ではなく、学習歴でした。

では、本学の「私立文系3大学」の根拠をどこに求めるか。それは、『古事記』の「修理固成」に基づく「学習歴」の優秀性にあつたと思われまふ。つまり、学びの意欲を喚起する「修理固成」の「人育ての国学院」です。具体的には「教職の国学院」として、社会的に表象されるようになりました。

実は、我が国の「学校」の起源を考察する上で、間接的にでも国学院大学との関係性を無視することはできません。

それは、我が国の「学校」は、明治5年教部省の下に置かれた教導職制に依る神社学校（神仏習合の寺院も）を起源としているからです。寺子屋は、幕末期には数百人規模のものもあり、場所として使用されたのです。地方では今でも、神社の横に由緒ある伝統校が存在するのはその故です。

なぜ、神社かと言えば、幕末から明治維新にかけて、神社は、公民の社会生活・文化面での社会的啓発活動の場だったからです。

それに対して欧米は、その起源が「読み書き算」を教える塾型の巡業（サーカス）でした。近世に入り各地に都市が生まれ、巡業する必要がなくなり、「学校」として定着したのです。

従って、我が国では、教育権は「国権」（故に教科書無償配布など）、欧米は「親権」（故に「不登校」等の概念無し）。

我が国は、神職の延長故に教師は「聖職」、欧米はサーカスなので校長は「スクール・マスター（团长）」（サーカスと同様、校長は人事権も教育内容決定権も保持）。

我が国は、欧米のような「読み書き算」の技能の習得だけでなく、その範疇は広く、生徒指導や特別活動、道徳教育（心の耕し）など「人づくり」まで含みます。

一口に「学校」と言っても、その起源を異にすれば本質を異にします。確かに、我が国の学校教育も欧米化されますが、その本質に係わる面では、本学の教育理念は関わっていたと言えます。

「明治天皇御製」でも「ものをまなぶ道にたつ子は怠り知らず」はなしと知らん」



近くて遠い？ 遠くて近い？ そんな親の気持ちや子どもの気持ちを一緒に考えませんか？ 新富名誉教授による子育てエッセーを隔月でお届けしています。読者の感想や新富名誉教授への質問をお待ちしています。

“自分たちも楽しく”をモットーに

共育フェスティバル学生代表
坂元力さん（子支3）

たまプラーザキャンパスを会場として人間開発学部が毎年10月に主催する地域の親子向けイベント「共育フェスティバル」。今年は約800人の親子連れが参加し、工作や理科実験、コンサートなどを楽しみ、子どもたちの笑顔がキャンパスにあふれた＝**3面に関連記事**。企画の立案や準備、当日の運営は学生たちが担う。初等教育学科、健康体育学科、子ども支援学科からそれぞれ代表が選ばれ、協力して学生たちのまとめ役を担う。

今年、中心的な役割を担ったのが坂元^{リキ}力さん（子支3）だ。代表として臨むにあたり、「みんなで一緒に作り上げる文化祭のようにしたい」と心がけた。6月から始まった会議や準備には、意識して明るく、楽しく臨める雰囲気となるように取り組んだ。理由を聞くと「去年は、どこか学生たちに“仕事感”があったんです。良いフェスティバルにするには、まず自分たちが楽しく臨まないと」と語る。背景には、学科での学びや経験がある。授業で子どもの目線や思いを大切にすることを学び、実習では子どもたちと触れ合う機会も多い。「学生が楽しくなかったら、企画にも影響が出てしまう。子どもたちに楽しんでもらうにはと考えた結果です」と教えてくれた。

会場は、階段の段差を利用した装飾など例年以上に華やかだった。全体の装飾は、坂元さんたち運営側を担当した学生の力作。「みんなは



それぞれの企画を充実させるために頑張っている。自分たちは、子どもたちがキャンパスに着いた時から喜んで、企画教室に向かう途中でも楽しんでもらえるようにしたかった」と演出に腐心した。

苦労した点を尋ねると、意外な答えが返ってきた。「実は苦労したと思う点は無いんです。むしろ一人一人が積極的に動いてくれて、助けてもらった。“自分たちも楽しく”が、うまく歯車としてかみ合ったのかな」と坂元さん。開催前日には、他の代表学生と協力して、準備の様子などを収めた動画を編集し、関わる学生にSNSで流した。「当日だけではなく、他学科との交流や準備の時間も含めて楽しいと知ってほしかった」と代表としてこだわった点を最後まで大切にした。

フェスティバルを振り返り、「子どもたちの遊ぶ場所や地域の交流が減ったりといったことが言われる中で、重要なイベントだと改めて思った」と坂元さん。また、子どもたちが楽しむだけでなく、学生も成長できる機会でもあるという。「もともと、人と話すのは少し苦手でした。でも、フェスティバルの準備などで多くの人とのつながりを持てた。コミュニケーションは、人生の大切なものの一つと実感できました」と自身で得た成長の実感を話してくれた。

将来は、子どもに関わる仕事に就きたいという坂元さん。「来年は就職活動があり、フェスティバルに関わるのは今年が最後。少し寂しいけれど、この経験を将来に生かしたいです」と穏やかな表情で語ってくれた。

渋谷区長への施策提言コンペ

「実際に役に立つ施策を 突き詰めていきたい」



コンペ参加学生と
審査員一同

今年7回目となる「渋谷区長への施策提言コンペ」が10月25日に開催された。12組の応募があった中、1次選考を通過した5組が審査員に対してコンペに臨んだ。審査員は長谷部健・渋谷区長、根本克彦・サッポロビール株式会社法人統括部統括部長、針本正行・本学学長の3人が務め、学生たちの提言を熱心に聞いた。

今回のテーマには、「未来のまちづくりに必要なこと」「地域コミュニティの維持と活性化のためにできること」が提示された。学生たちは、渋谷区の現状や課題を踏まえつつ、それぞれの観点から考えた施策について熱弁を振った。

審査の結果、地域コミュニティの維持と活性化について提案した清水^{もとみ}元葵さん（法3）＝写真前列左から6人目、三浦夕佳さん（法3）、森下陽向さん（日文3）、小松遙さん（史3）のグループが渋谷区長賞に輝いた。同グループは、渋谷区が取り組む近隣住民同士での声かけを推奨するイベント「渋谷おとなりサンデー」

に着目。子どもが楽しめるようにスタンプラリーとハザードマップの要素を掛け合わせ、地域を巡りつつ住民同士が交流を深める新しい在り方を提案した。

長谷部区長＝**同5人目**＝は、「避難所区域を活用し、行政の視点でも考えられた完成度の高い提案だった」と評価した。グループ代表を務めた清水さんは「“実際に役に立つ施策だ”と住民の方に思ってもらえる施策になるように工夫し、審査員の方たちにも伝わるように心がけた」と振り返った。

サッポロホールディングス賞には、「Japanese Nightmarket in Yoyogi Park ～ナイトマーケットを渋谷のシンボルに～」を提案した細谷仁衣那さん（経3）、金森永時さん（経営3）、仲颯希さん（経3）、西村大和さん（経3）のグループが選ばれ、学長賞には『「ササハタハツ商店街クラスルーム」開校!!!!』を提案した星野文花さん（法4）が選ばれた。

第141回若木祭

4年ぶりの模擬店 来場者でにぎわう

国学院大学の学園祭・第141回若木祭が、渋谷キャンパスで開催された。11月4日から6日までは本祭、6日午後3時から後夜祭が行われた。実行委員会主催の文化企画では、昨年注目を集めた映画「ラーゲリより愛を込めて」の上映と監督の瀬々敬久氏の講演が行われた。

期間中、120周年記念2号館・3号館前のキャンパスモール下には、4年ぶりに部会やサークルが模擬店を出店し、各団体が趣向を凝らした品々を提供。校舎内では、文化・学術系団体の展示や発表会、講演会が行われた。また、3号館前のキャンパスモール下や5号館ピロティでは、全学応援団、体育系部会の演武や吹奏楽部の演奏、ダンスサークルによるパフォーマンスなどが随時披露された。来場者は足を止め、学生たちの活気あふれる発表に声援・拍手を送っていた。5日には、話題のシンガー・ソングライター、舟津真翔氏によるライブが行われ、会場を盛り上げた。



ソフトテニス部

ジュニアオリンピック

ダブルス優勝

国学院大学ソフトテニス部の濱島怜奈選手（初教2）が、広島市で9月30日から10月1日にかけて開催されたJOCジュニアオリンピックカップ第30回全日本ジュニアソフトテニス選手権大会の女子ダブルスU20の部において、優勝する活躍を見せた。

本大会は、公益財団法人日本ソフトテニス連盟が主催し、20歳以下のU14、U17、U20の各区分別全国大会上位選手および同連盟推薦選手16ペアによる日本最高峰の選手権大会となる。

なお、濱島選手は昨年度のシングルスに続き、今年度はダブルスでチャンピオンとなり、U20のカテゴリーでの2冠を達成した。

濱島選手は同連盟の推薦を受け、左近知美選手（日本体育大学2年）とペアを組み出場したが、初めて組んだとは思えないコンビネーションで、いずれの試合でも対戦相手に実力を見せつけ勝利を重ねていった。

広島翔洋高校との初戦では常に主導権を握り4－1で制し、続く須磨学園高校（兵庫県）との対戦も濱島選手の配球で相手のミス誘い4－2で勝利。準決勝の日本体育大学・明治大学選手ペアとの対戦では4－0と圧勝し勢いをつけると、決



見事優勝に輝いた濱島選手（右）と左近選手（同部提供）

勝の和歌山信愛高校戦では、息の合った双子のペアを相手にお互い一步も譲らない展開となり、途中2－2のシーソーゲームとなるも、濱島選手の絶妙な配球により相手ペアを揺さぶり、最終的には4－2で勝利し、優勝を成し遂げた。

試合後、新本弘司・同部女子監督は濱島選手に対して「今回の結果を糧にして、チームの要としてさらに活躍してくれることを期待している」と語った。

硬式野球部

武内投手

西武ライオンズから1位指名

プロ野球ドラフト会議が10月26日に開催され、国学院大学硬式野球部の武内夏暉投手（健体4）が埼玉西武ライオンズから1位指名を受けた。

当日、武内投手は同部の鳥山泰孝監督、部員らとともに、たまプラーザキャンパスで会議の様子を見守った。1巡目の指名が始まり、最初に東京ヤクルトスワローズから指名されると会場は大歓

声に包まれた。続いて、ライオンズ、福岡ソフトバンクホークスからも1位で指名を受け、抽選の結果、ライオンズが交渉権を獲得。武内投手が安堵の表情を見せると部員らが万雷の拍手で祝福した。

指名後、記者会見に臨んだ武内投手は、「今まで支えてくれた両親に感謝したい。持ち味の制球力と変化球を生かして、1年目から開幕ローテーションを目指したい」と力強く語った。鳥山監督は「(武内投手は)伸びしろも多い。活躍を楽しみにしている」とエールを送った。

会議後には、ライオンズの松井稼頭央監督が来校し、「将来はチームだけでなく日本のエースとなってほしい」と期待の言葉を寄せた。

武内投手は八幡南高校（福岡県）出身。今季は日米大学野球の侍ジャパン大学代表にも選ばれ、日本代表の勝利に貢献するなど、同部の左腕エースとして活躍した。



胸上げされる武内投手

硬式野球部

東都秋季リーグ

大接戦の中、1部残留

東都大学野球1部秋季リーグが全日程を終え、国学院大学硬式野球部は4位で1部残留を決めた。

最終第5週は亜細亜大学との3連戦となり、10月17日の第1戦では、一進一退の攻防の末、タイブレークに持ち込むも2－3と敗れ、5位に後退した。続く18日の第2戦では1－1で迎えた九回表、2死二塁から代打で立花祥希選手（健体2）が2ランホームランを打ち、3－1で勝利し3位に浮上。勝ち点2で3校が並ぶという予断を許さない状況の中、1部リーグの残留争いは、最終戦で決することとなった。

19日の第3戦では、奮戦したもののチャンスをつかむことはできず、0－6で敗れた

が、結果として秋季リーグは4位という順位で終えることとなった。

なお、秋季表彰選手には、武内夏暉投手（健体4）が選出された。武内投手は最終週にエースとして3連投しながらも通算5勝を挙げ、防御率0.97で最優秀防御率を獲得し、1部リーグベストナインの投手としても選出された。

順位	大 学 名	勝	負	分	勝率	勝点
1	青山学院	7	5	0	0.583	3
2	日 本	7	6	0	0.538	3
3	中 央	8	7	0	0.533	3
4	国 学 院	6	7	0	0.462	2
4	亜 細 亜	6	7	0	0.462	2
6	東 洋	5	7	0	0.417	2



価千金の2ランホームランを打った立花選手

陸上競技部

全日本大学駅伝 3位で2年連続表彰台

秩父宮賜杯第55回全日本大学駅伝対校選手権大会が11月5日、熱田神宮西門前（愛知県）から伊勢神宮内宮宇治橋前（三重県）までを繋ぐ全8区間・106.8kmのコースで開催された。オープン参加2チームを含む全27チームが争う中、国学院大学陸上競技部は5時間12分39秒で3位と2年連続で表彰台に上った。

1区は後村光星選手（健体1）が学生駅伝デビュー戦ながら、2位集団でレースを進めるとライバル校の選手と僅差の6位で2区の山本歩夢選手（健体3）へ襷リレー。山本選手は後続大学にかわされるも、最後は意地を見せ大東文化大学と同タイムの10位で第2中継所に飛び込んだ。襷を受け取った3区の上原琉翔選手（健体2）は快調な走りを見せ、区間3位の好



見事に区間賞を獲得した平林選手

走。9位に浮上し先行する大学との差を縮めた。4区の高山豪起選手（法2）も上原選手の勢いを受け、早稲田大学、帝京大学、東京国際大学を次々と抜き去り、一気に6位まで押し上げ上位進出への足がかりを築いた。

レース後半戦に突入した5区の青木瑠郁選手（健体2）も積極的なペースで先行する大学を抜き去り3位へ浮上。6区の嘉数純平選手（健体2）は上位争いが激しさを増す中、粘りの走りを見せ、4位で7区を担うエースの平林清澄選手（経営3）へ襷を繋いだ。「区間賞を狙っていた」という平林選手は、6秒先行していた中央大学に並ぶとそのまま並走し、2位の青山学院大学を追走。最後は中央大学に1秒先行されるも第6中継所で43秒あった青山学院大学との差を9秒に縮め、見事に区間賞を獲得した。8区は主将の伊地知賢造選手（健体4）が、3年連続でアンカーを務めた。伊地知選手は前を行く青山学院大学との差を冷静な走りで縮め、15km過ぎにその背中を捉える。本学、青山学院大学、中央大学の三つ巴の2位争いとなる中、伊地知選手は集団をけん引する。勝負はゴール直前までもつれ、激しいスパート合戦に。最後は5時間12分39秒の3位で宇治橋前のゴールに飛び込み、昨年の準優勝に続き2年連続で表彰台に上った。優勝は4連覇となった駒沢大学で、5時間9分0秒だった。

個人成績						総合順位（8位入賞まで）		
区間	氏名	所属	タイム	区間順位	総合順位	順位	大学名	記録
1	後村 光星	健体1	27分26秒	6位	6位	1	駒 沢	5:09'00
2	山本 歩夢	健体3	32分22秒	11位	10位	2	青 山 学 院	5:12'34
3	上原 琉翔	健体2	34分01秒	3位	9位	3	国 学 院	5:12'39
4	高山 豪起	法2	34分33秒	4位	6位	4	中 央	5:12'49
5	青木 瑠郁	健体2	36分08秒	3位	3位	5	城 西	5:17'23
6	嘉数 純平	健体2	38分11秒	5位	4位	6	創 価	5:18'21
7	平林 清澄	経営3	51分07秒	1位	4位	7	大 東 文 化	5:19'21
8	伊地知賢造	健体4	58分51秒	2位	3位	8	東 京 国 際	5:20'05



ゴールへ向かう伊地知選手

柔道部

講道館杯 田中選手3位、武岡選手（院友）が2連覇

階級別日本一を決める国内タイトルの一つ、講道館杯全日本柔道体重別選手権大会が11月4、5日に千葉ポートアリーナ（千葉市）で開催された。国学院大学柔道部からは7選手、院友も6選手が出場し、男子60kg級で田中祥選手（経営4）が3位、同66kg級では院友の武岡毅選手（令4卒・130期日文、パーク24）が2連覇を果たした。

田中選手は、1回戦を内股と小内刈の合わせ技で勝利すると、2回戦でも大外刈の技ありで勝利しベスト8に進出。3回戦では、延長戦で大内刈を決め一本を奪い準決勝へ駒を進めた。準

決勝では惜しくも敗れたが、3位入賞を果たした。

武岡選手が制した同66kg級は、国内競争が最も激しい階級ともいわれ、軽量級を得意とする同部の選手、院友が活躍している。決勝では同じく院友の藤阪泰恒選手（平31卒・127期健体、パーク24）との対決となり、1・2位を院友で占めた。ほかにも羽田野啓太選手（健体3）と相田勇司選手（令4卒・130期法、ALSOK）がベスト16となった。同90kg級では、中村俊太選手（健体3）が5位に入賞を果たした。

10月21、22日には体重別団体での学生日本一を争う男子第25回・女子

第15回全日本学生柔道体重別団体優勝大会がベイコム総合体育館（兵庫県尼崎市）で開催され、同部は男子の部でベスト16となった。

男子の部は、全53大学が参加。代表選手7名による点取り式のトーナメント戦で実施。同部は1回戦シードとなり、21日の2回戦から登場。大阪体育大学（大阪府）と対戦し、5-0と圧倒した。翌22日の3回戦では強豪の筑波大学と対戦。先鋒の羽田野選手が技ありで勝利したが、勢い続かず1-5と敗れた。この結果、同部はベスト16となった。優勝は、筑波大学で10年ぶり4度目。



男子60kg級で3位となった田中選手